



「関西健康・医療創生会議 シンポジウム」の開催結果について

平成30年12月25日

イノベーション推進担当

明日の医療を支え、健康関連産業創出の源となるのは健康・医療ビッグデータ、それを活用できる人材がいなければデータの価値は生まれない。「関西健康・医療創生会議」では、こうした認識のもと、健康・医療ビッグデータを活用して、次世代の医療を切り拓き、また新ビジネスにつなげるための人材育成の取組について、改めてその重要性の理解を深めてもらうため、産業界と京都大学での最新事例の発表を行った。

記

- 1 日 時 平成30年11月29日（木） 15:00～17:20
- 2 場 所 関西経済連合会 会議室
- 3 主 催 関西健康・医療創生会議、NPO 法人関西健康・医療学術連絡会
- 4 テーマ ヘルスケア・データサイエンティストの育成
- 5 参加者数 約150名（企業87、アカデミア31、行政関係32）
- 6 内 容〈別紙参照〉



(1) 挨拶 井村 裕夫 関西健康・医療創生会議議長

○英国50万人、米国100万人のコホート研究が始まり、非常にたくさんの人を観察することで今まで見えていなかったものが見えてくる。新しい医療の時代が近づいている。

(2) 講演の部

- 次世代医療基盤法の施行によりデータを活用する人材の養成・確保が必要であり、大学病院がデータヘルスサイエンスの教育現場として期待される。（黒田 京都大学教授）
- 企業は、時間をかけずにデータサイエンティストの人材ニーズを満たし競争力につなげたいので、社会人の学び直し、リカレント教育が重要となる。（清水田辺三菱製薬執行役員）
- データサイエンスを修めただけではヘルスケア分野に定着しない。ヘルスケアに対する当事者意識のある人を数多く育てる必要がある。そうした人材が集まる仕組みを県立大に創りたい。（竹村兵庫県立大学大学院教授）

(3) 京都大学での取組紹介

（京都大学 黒田教授・鎌田准教授、デロイトトーマツ 柳本・泉シニアマネジャー）

- データを活用できる「アクセル人材」とデータ活用を統制する倫理等の知識を持つ「ブレーキ人材」などが必要で、そうした人材を育成する仕組みを関西全体に広げていきたい。
- ヘルスケア領域に深い造詣を有し、社会変革を実現しうる人材を、来年1月から試行、10月から本格的に育成して、将来的に他大学、産業界へ展開したい。
- データサイエンティストの不足は、経営層のリテラシー不足も要因の一つといえることから、データサイエンスを理解した上で、経営の舵取りが出来る人材を輩出したい。
- 分析などのデータサイエンス力に加え、価値を正しく説明し理解してもらうストーリーテリング力といった能力が求められ、また、自律的に周囲を巻き込み物事を達成し、価値を生み出していく姿勢も重要である。

7 まとめ

企業関係者から多くの参加が得られるなど、データサイエンティストの育成に係る企業等の関心の高さがうかがえた。

また、多くの参加者にその重要性について周知を図ることが出来た。

（アンケートの9割以上が有意義、大変有意義と回答。また、日経デジタルヘルスにも結果が掲載され、多くの方に読まれている。）

(1) 挨拶 井村 裕夫 関西健康・医療創生会議議長

これから世界は急速に高齢化していく。高齢者の健康をどうやって守るかはどの国にとっても極めて重要な課題だ。イギリス 50 万人、アメリカ 100 万人のコホート研究が始まっており、非常にたくさんの人を観察することによって今まで見えていなかったものが見えてくる。新しい医療の時代が近づいている。

(2) 講演の部

「データヘルスを巡る最近の動き」

〔 京都大学医学部附属病院医療情報企画部 教授 黒田 知宏 〕

EUのデータ保護規制の影響を受け、個人情報保護法が改正され、昨年施行された。個人情報保護法には個人情報の利用にかかる制約があるが、法律が別に定められていれば個人情報保護法のルールは乗り越えられる。そこで立法措置されたのが次世代医療基盤法である。個人同意に基づく本人情報を使ったサービスに加え、匿名加工情報を活用したサービスが可能となり、この二つを上手く組み合わせることもできる。データを活用した様々なサービスが生まれることを想定したもの。

こうしたサービスを生み出すデータ利活用の基盤が適切に機能していくためには、データを活用する人材の育成・確保が必要であるとして、内閣の基本方針としてその育成・充実が定められた。文科省では、平成 31 年度予算で、医療データを利活用できる人材の育成拠点形成を図る新規事業を要求している。

大学病院は、情報科学を教える教育力、医療情報の癖などを経験できる現場力、それから実践の材料・機会が得られる情報資産といった要件を有し、データヘルスサイエンスの教育現場として、その役割を担っていくことが期待されている。

「産業界が抱える課題と新たな人材育成の必要性」

〔 田辺三菱製薬株式会社 執行役員 チーフ・デジタル・オフィサー 清水 良 〕

これからの製薬企業は、製薬だけでなく、睡眠時間や歩数などの生活データを含めた様々なデータを活用して、ヘルスケア産業にビジネスを拡大したいと考えている。

データサイエンティストの需給ギャップは広がっており、今後、人材不足がさらに深刻化すると言われている。産業界にとっては、人工知能技術の活用などによるデータ活用人材の育成が重要になるが、データサイエンス力に加えて、現実の問題を解決する能力も兼ね備えた人材が必要である。

企業には、AIやIoTによって様々なデータ分析が可能となり新ビジネスへの期待がある一方で、人材は逼迫している。このため、時間をかけずに人材ニーズを満たし、企業の競争力につなげたいと考えており、これからは社会人の学び直しであるリカレント教育が重要となる。

「大学・大学院でのヘルスケア IT 人材育成戦略」

〔 兵庫県立大学大学院・応用情報科学研究科教授

竹村 匡正 〕

兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科には、社会人向けのヘルスケア情報科学コースがあり、博士課程で看護師や病院の医療情報担当者など多くの医療関係者が学んでいる。病院で働く人にとって、医療情報を学べる場所が必要であったことを認識した。

兵庫県立大学では、来年度から社会情報科学部が開設され、データサイエンスで社会課題を解決していく人材の育成をめざしている。ただ、データサイエンスを修めただけではヘルスケア分野に定着はしない。ヘルスケアに対する当事者意識のある人を数多く育てることが必要。そうした人たちが集まり人間関係ができれば面白いことが起こると思うので、その仕組みを兵庫県立大学に創りたい。

(2) 京都大学での取組紹介

「京都大学医学研究科、附属病院での取組」

〔 京都大学医学部附属病院医療情報企画部 教授

黒田 知宏 〕

データヘルスサイエンスを支える柱は、データを活用できる技術を有する「アクセル人材」、データ活用を統制する倫理等の知識を持った「ブレーキ人材」、質量が整った医療データをつくりだす「基盤人材」である。京都大学では、こうした人材を育てる枠組みとして、病院経営者を育てるプログラムやこのあと説明される社会変革型データサイエンティスト教育プログラムなど様々なプログラムを用意している。関西全体にこうした人材を育成する仕組みを拡げていきたい。

「社会変革型ライフサイエンス・ヘルスケア特化データサイエンティストの育成」

〔 京都大学医学研究科人間健康科学系専攻 准教授

鎌田 真由美 〕

本学の「社会変革型データサイエンティスト育成プログラム」の目的は、ヘルスケア領域に深い造詣を有し、社会変革を実現しうる人材を育成すること。そうした人材には、分析能力に加え、課題を抽出・設定し解決する能力が不可欠。

「医薬・薬学・生命科学」と「情報学・工学」に加え、「法学・倫理」さらに「社会・ビジネス」の4方向からの知識・能力が必要である。

具体的なカリキュラムは、「経営・社会変革」、「医学・生命科学」、「情報・データサイエンス」の各分野の具体的なユースケースを想定し設定している。また、本学のほか附属病院、デロイトトーマツなどの各機関の強みを生かした講義内容にしていく。

実施については、まず1クール3ヶ月の試行講座を、来年1月から行った後、社会人にも募集を行い講座を提供する。本格的には、試行実施後の来年10月以降、1クール6ヶ月で開始し、120時間以上の受講で履修証明が発行されるプログラムとしている。他大学や産業界にも展開していきたい。

デロイトトーマツコンサルティング合同会社
モニターデロイト | ストラテジー
ライフサイエンス&ヘルスケア シニアマネジャー
京都大学 大学院医学研究科人間健康科学系 特命准教授

柳本 岳史

ビジネス拡大や新ビジネスのための戦略には、必ずデータサイエンスが求められるが、実行力が伴わないなどの理由で経営陣がその戦略をためらうことが多い。ライフサイエンス系企業におけるデータサイエンティストの不足は、経営層のリテラシー不足によって取組が遅れてきたからではないか。

現場でデータを扱い新たな価値を見いだす人だけではなく、データサイエンスを理解した上で、経営企画などの部門で経営の舵取りが出来る人材を輩出していきたい。

有限責任監査法人トーマツ デロイトアナリティクス シニアマネジャー
京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻 特命准教授

泉 晃

データ分析にはそれぞれのプロセスがあり、プロセス毎のステップとスキルが必要。重要なのは、プロセスの中でどこに価値が生じるのかを見つけ出し、データを価値に変えていくこと。そのためには、分析などのデータサイエンス力に加えて、価値を正しく説明し理解してもらうストーリーテリング力といった能力が求められる。また、自ら自律的に周囲を巻き込み物事を達成し、価値を生み出していく姿勢も重要である。

